



平成18年3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年1月26日

上場会社名 マミヤ・オーピー株式会社

（コード番号：7991 東証第2部）

（URL <http://www.mamiya-op.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職名 代表取締役社長 氏名 滝沢 三規

責任者役職名 常務取締役管理本部長 氏名 志田 太利夫（TEL：(048) 858 4880）

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
影響額が僅少な項目につき一部簡便な方法を採用
しております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成18年3月期第3四半期財務・業績の概況（平成17年4月1日～平成17年12月31日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況（単位：百万円未満切捨て）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期） 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第3四半期	13,042	20.9	747	19.0	867	14.1	1,286	-
17年3月期第3四半期	16,489	56.6	923	228.4	760	-	443	-
（参考）17年3月期	21,472		1,332		1,131		427	

	1株当たり四半期 （当期）純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 （当期）純利益
	円 銭	円 銭
18年3月期第3四半期	33.13	-
17年3月期第3四半期	11.40	-
（参考）17年3月期	11.01	-

（注）売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示す。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国経済は、原油価格の高騰など先行きに対する不透明感が残るも、企業収益の改善を背景に設備投資や個人消費が堅調に推移し、景気回復傾向が続いております。

このような状況下、当第3四半期の売上高は130億42百万円（前年同期比20.9%減）、経常利益8億67百万円（前年同期比14.1%増）、当第3四半期純損失12億86百万円（前年同期は4億43百万円の純利益）となりました。

次に部門別に報告致します。

電子機器事業部門では、パチンコホール機器業界における価格競争の激化と昨年度の新紙幣発行に伴う特需の反動もあり、売上高は94億63万円（前年同期比25.2%減）となりました。

光学機器事業部門では、銀塩カメラ市場が厳しい状況の中、平成17年12月に高画素デジタルカメラ（2,200万画素数）を発売致しました。この結果、売上高は14億25百万円（前年同期比15.1%減）となりました。

スポーツ事業部門では、国内では女子ツアーの盛り上がりにも拘わらず、全般的には厳しい環境に置かれていますが、昨夏発売致しました4軸織物アイアンシャフト「AXIV」がウッドとのマッチングの良さもあり健闘致しました。海外では、依然として競合他社のOEM（相手先ブランド生産）への低価格販売攻勢に対し、原材料の高騰もあり、売上は伸び悩みました。この結果、売上高は21億53百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第3四半期	24,190	1,851	7.7	47.71
17年3月期第3四半期	30,726	2,878	9.4	74.10
(参考)17年3月期	26,693	2,742	10.3	70.64

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第3四半期	2,326	376	529	2,787
17年3月期第3四半期	1,071	40	651	3,886
(参考)17年3月期	3,330	264	1,232	5,241

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は、23億26百万円（前年同期は10億71百万円の資金増加）となりました。

これは主に、たな卸資産の減少14億2百万円による資金増加要因があったものの、税金等調整前四半期純損失12億61百万円、売上債権の増加25億74百万円、仕入債務の減少11億19百万円等の資金減少要因があったことによるものです。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、3億76百万円（前年同期に比べ3億36百万円の資金増加）となりました。

これは主に、土地等の有形固定資産の売却による収入2億57百万円、定期預金の解約による収入（純額）1億5百万円等によるものであります。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は5億29百万円（前年同期は6億51百万円の使用）となりました。

これは主に借入金の返済（純額）5億24百万円によるものであります。

これらの結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は、期首残高から24億54百万円減少し、27億87百万円となりました。

以上

[参 考]

[業績予想に関する定性的情報等]

当第3四半期（平成17年10月1日から平成17年12月31日まで）の業績は、売上高及び利益ともに計画を上回っておりますが、通期につきましては、平成17年11月25日に開示しました予想は変更しておりません。

〔添付資料〕

1 .(要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成18年3月 期第3四半期末)	前年同四半期 (平成17年3月 期第3四半期末)	増 減		(参考) 平成17年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産					
現金及び預金	2,850	4,031			5,409
受取手形及び売掛金	5,478	7,989			2,869
たな卸資産	4,710	6,407			6,017
その他	961	92			114
流動資産合計	14,001	18,521	4,519	24.4	14,411
固定資産					
有形固定資産	7,976	9,505			9,498
無形固定資産	70	60			67
投資その他の資産	2,140	2,639			2,716
固定資産合計	10,188	12,205	2,016	16.5	12,282
資産合計	24,190	30,726	6,536	21.3	26,693
(負債の部)					
流動負債					
支払手形及び買掛金	4,898	9,526			6,051
短期借入金	3,939	4,799			4,362
未払法人税等	22	17			34
その他	573	375			485
流動負債合計	9,433	14,720	5,286	35.9	10,934
固定負債					
長期借入金	11,108	11,317			11,184
退職給付引当金	1,504	1,570			1,563
その他	292	240			267
固定負債合計	12,904	13,128	223	1.7	13,016
負債合計	22,338	27,848	5,510	19.8	23,950
(少数株主持分)					
少数株主持分	-	-	-	-	-
(資本の部)					
資本金	2,958	2,958	-	-	2,958
利益剰余金	1,304	3	1,301	-	18
その他有価証券					
評価差額金	347	236	111	47.0	264
為替換算調整勘定	126	298	171	57.4	443
自己株式	23	15	8	53.3	18
資本合計	1,851	2,878	1,026	35.6	2,742
負債、少数株主持分 及び資本合計	24,190	30,726	6,536	21.3	26,693

2.(要約)四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成18年3月期 第3四半期)	前年同四半期 (平成17年3月期 第3四半期)	増 減		(参考) 平成17年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	13,042	16,489	3,447	20.9	21,472
売上原価	9,481	12,733	3,251	25.5	16,456
売上総利益	3,560	3,756	195	5.2	5,015
販売費及び 一般管理費	2,812	2,833	20	0.7	3,683
営業利益	747	923	175	19.0	1,332
営業外収益	393	89	303	-	138
受取利息及び 配当金	16	6			7
その他	376	82			131
営業外費用	273	252	21	8.3	339
支払利息	228	199			266
その他	45	52			73
経常利益	867	760	107	14.1	1,131
特別利益	55	14	41	-	51
特別損失	2,185	302	1,882	-	694
固定資産売却 却損	237	71			70
減損損失	975	-			-
その他	971	231			623
税金等調整前四 半期(当期)純 利益又は純損失 ()	1,261	471	1,733	-	488
税金費用	24	28	3	13.8	60
四半期(当期) 純利益又は純損 失()	1,286	443	1,729	-	427

3.(要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当四半期 (平成18年3月期 第3四半期)	前年同四半期 (平成17年3月期 第3四半期)	(参考) 平成17年3月期
区 分	金 額	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益又は純損失()	1,261	471	488
減価償却費	212	152	204
減損損失	975	-	-
売上債権の増減額(増加:)	2,574	5,329	239
たな卸資産の増減額(増加:)	1,402	595	277
仕入債務の増減額(減少:)	1,119	6,347	3,120
その他	298	273	380
小 計	2,067	1,319	3,676
利息及び配当金の受領額	16	11	11
利息の支払額	209	193	277
法人税等の支払額	66	66	80
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,326	1,071	3,330
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の売却による収入	257	116	118
有形固定資産の取得による支出	118	115	414
定期積金の預入による支出	14	304	40
定期積金の解約による収入	119	358	72
その他	132	15	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	376	40	264
財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期(短期)借入による収入	1,212	1,364	2,283
長期(短期)借入金の返済による支出	1,736	2,013	3,509
その他	5	3	6
財務活動によるキャッシュ・フロー	529	651	1,232
現金及び現金同等物に係る換算差額	26	12	6
現金及び現金同等物の増減額 (減少:)	2,454	473	1,827
現金及び現金同等物の期首残高	5,241	3,413	3,413
現金及び現金同等物の期末残高	2,787	3,886	5,241

4. セグメント情報

(表示区分の変更)

事業区分については、従来、製品の種類、性質の類似性等の観点から「電子機器事業」、「光学機器事業」、「スポーツ事業」、「特機事業」の4区分としていましたが、事業再編成の結果、当連結会計年度より「電子機器事業」、「光学機器事業」、「スポーツ事業」の3区分とし、従来、特機事業として区分しておりました製品については、電子機器事業及びスポーツ事業にそれぞれ区分いたしました。尚、前年同四半期についても、事業再編成後の事業区分方法により表示しております。

〔事業の種類別セグメント情報〕

当四半期

(単位：百万円)

	電子機器 事業	光学機器 事業	スポーツ 事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	9,463	1,425	2,153	13,042	-	13,042
営業費用	8,248	2,057	1,988	12,294	-	12,294
営業利益又は 営業損失()	1,214	632	165	747	-	747

前年同四半期

(単位：百万円)

	電子機器 事業	光学機器 事業	スポーツ 事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	12,647	1,679	2,162	16,489	-	16,489
営業費用	11,111	2,337	2,118	15,566	-	15,566
営業利益又は 営業損失()	1,536	658	44	923	-	923

〔所在地別セグメント情報〕

当四半期

(単位：百万円)

	日本	アジア	北米	計	消去又 は全社	連結
売上高	11,379	1,087	1,394	13,860	(818)	13,042
営業費用	10,794	1,047	1,261	13,103	(809)	12,294
営業利益	584	39	132	756	(9)	747

前年同四半期

(単位：百万円)

	日本	アジア	北米	計	消去又 は全社	連結
売上高	14,786	1,144	1,281	17,213	(723)	16,489
営業費用	14,018	1,092	1,231	16,342	(776)	15,566
営業利益	768	52	49	871	52	923